

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

国	語
---	---

課題分析		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見、考えを書く力が弱い。 ・正解が2つ以上ある時、完答できない生徒が多い。 ・漢字は広範囲からの出題だと、正答率があがらない。
授業改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・単元終了ごとに、自分の意見や考えを書かせるようにし、添削し、フィードバックし、推敲させる。 ・漢字については、小テスト、補習を継続させていく。
補足的・発展的な学習指導計画	一単位時間内	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習の時間を継続させる。 ・読解、表現ともに生徒に考えさせ、発言させる機会をもつ。
	単元の途中 や単元末	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の時間をとる。 ・朝読書の時間を利用し、教材と関連ある図書を紹介する。
	学力補充教室等 (放課後・休業日)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の練習を継続させる。 ・夏休みに副教材のワークを使い、問題演習を行う。 ・テスト前に質問教室を実施する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

社 会

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>学習に対しての関心・意欲・態度は高く、知識・理解についても身に付いているものが多い。また資料を活用し解答を導き出す能力も身に付いている。課題としては、思考・判断する力や表現力する力が十分とはいえない点である。自らの考えや知識をもとに、地図・資料等を分析し、的確に表現できる力をつける指導を充実させたい。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教材(写真や実物など)を使って、関心・意欲を高める。 ・作業的な学習をする。 ・ワークシートを活用し、思考・判断や文章表現力を高める。 ・「知識の定着」を図るために、プリントを用いた反復練習を適宜行う。 また授業毎、もしくは単元毎の小テストを実施する。 ・適切な課題による調べ学習、レポート作成等を取り入れるとともに、発表を行うなど表現力を高める。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を用意し、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・新聞記事やニュースを利用して社会事象への関心を高める。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成など、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・現在の社会問題に対して、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・適切な課題による調べ学習を行い、発表などを行う。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査1週間前には、放課後に質問教室を実施する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

数 学

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>学習に対しての関心・意欲・態度は高い。課題としては、授業で教わったことがすぐに定着する生徒と、なかなか定着しない生徒の差が激しいことである。また、能力クラス別の少人数指導であるが、希望制であるので、生徒自らの能力にあったクラスと違うクラスで学習を進めているケースがある。そのためにも、教員がそれぞれのクラスにあった授業内容を展開すると同時に、生徒の能力をきちんと把握していくことが重要である。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教材を使って、関心・意欲を高める。 ・学習した内容の定着を図るために、プリントを用いた反復練習を適宜行う。また授業毎、もしくは単元毎の小テストを実施する。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位 時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解かせて、数学的な技能の向上を図る。 ・課題を与え、生徒自らのやり方で問題を解かせる等、他にも様々なやり方があることを確認しながら、数学の問題の解き方に関心を持たせる。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート学習を提出させ、計算の仕方や定着の度合いを確認する。 ・小テストを実施し、単元の内容がどの程度身に付いているかを確認する。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの夏期補習教室の実施。主に基礎学力の向上を図る。 ・テスト一週間前に希望制で補習を行う。
	<p>少人数指導の実施計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年希望調査を取り、2クラスを3つの少人数クラス(基礎、定着、応用)へと分ける。なお、各学年1クラスのみは2つの少人数クラス(基礎、定着・応用)へ分ける。 ・新しい章が始まる前に少人数クラスのクラス変更希望があれば申し出てもらい、変更を可にしている。 ・希望調査によつての少人数クラス分けなので、クラスが生徒自身の実際の学力と差異がある場合がある。なので、教員側が生徒の実態をきちんと把握し、生徒にあった少人数クラスへと導く声かけをする必要がある。また、教員がコースに合わせた授業を計画どおりに行っていく。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

理 科

課題分析	指導方法の	<p>1 学年では実験、観察の基礎操作と、実験報告書の作成(スケッチやグラフを含め)が身につけていない生徒がいる。</p> <p>2, 3 学年では実験の目的を明確にして実験に取り組むことや自ら考えた実験方法の実践、自然事象の科学的法則の考察等、自らの考えを明確にすることに課題がある。</p>
授業改善策	具体的な	<p>1 学年では実験観察の基礎操作、実験報告書の作成方法等、TT を活用して丁寧に指導していく。</p> <p>2, 3 年は目的の明確化と自らの考えをまとめ、発表する指導をしていく。</p>
補充的・発展的な学習指導計画	一単位時間内	<p>実験が早く終わったグループに対して別の実験方法を用意し、取り組ませる。実験結果の検証と考察から、自然事象の科学的法則を発見させる。実験に時間がかかるグループには TT を活用して早めに指導していく。</p>
	単元の途中 や単元末	<p>ワークシート等による問題演習の取り組み。TT を活用して基礎的な内容が十分でない生徒への個別対応。</p> <p>学習内容と現代の科学技術や科学的課題を結び付けて考察する。</p>
	学力補充教室等 (放課後・休業日)	<p>放課後に実験の補講を行う。定期考査前には質問教室を実施する。</p>
	T・Tの実施計画	<p>実験観察中、遅れているグループへの指導援助。実験報告書作成に関する個別指導。問題演習で基礎的な内容の理解が十分でない生徒に対する個別指導。</p>

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

音 楽

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態と、目標に迫るための指導の工夫がかみ合っていないことがあった。学習活動が生徒にとって平易だったりまたは難しいものであったり、おおかた理解できていることを繰り返し学習させる場面もあった。少ない授業時数なので、無駄のない、充実した授業内容を目指す。 ・教師主導型の授業展開が多いので、生徒の思いを生かした活動や、自主的な活動の場面を増やしたい。
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で把握した生徒の実態を、次時の授業計画の微調整や、次単元の指導計画作成に反映させる。 ・目標をしっかりと理解させた上で、生徒が自分たちで目標に向かって活動を進めていくような場面を増やしていく。（合唱のパート練習、器楽のグループ練習等） ・生徒の思いや考えを生徒同士で交流し、そのことによって自分の思いや考えを深める場面を増やしていく。（鑑賞で感じ取ったこと等）
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p> <p>〈補充〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の際、教師やパートリーダーのそばにおいて活動させる。 ・個人練習の際等に声をかける。 ・個人の進度を把握する学習カード等を用い、学習状況やつまづいている点を把握し、指導計画に生かす。 <p>〈発展〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー的役割を担ってもらう。 ・器楽アンサンブルで、発展的なパートを受け持たせる。
	<p>単元の途中 や単元末</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の進度を把握する学習カード等を用い、学習状況やつまづいている点を把握し、指導計画に生かす。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや放課後に必要に応じて補充指導を行う。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

美 術

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を楽しんで取り組む生徒は多いが、先の見通しが立てられず、時間内に課題が終わらない生徒も少なくない。 ・授業時数の少ない中で、より充実した表現活動ができるよう工夫された題材が必要である。 ・作業時間の確保のため、課題説明や用具の取扱説明など、できる限り少ない時間で効率よくできるように内容の精選が必要である。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で様々な課題に取り組めるよう、ジャンルに偏りのない題材設定をするよう心がける。 ・計画的に制作に取り組めるよう、授業の中で提出期限を繰り返し伝える。 ・作品完成に向けて、作業内容の段階別に生徒の進行状況を把握し、遅れている生徒には個々に指導していく。 ・課題説明はできる限り精選し、作業時間を確保する。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その時間までに仕上げさせたい作業内容、作業目的について、授業の初めに伝える。 ・机間巡視しながら、個々の課題にたいして一人一人アドバイスしていく。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の進行状況を確認し、個々の生徒が計画的に作品完成に向かうよう促す。 ・制作の目的や目標をもう一度確認し、ただ作品を完成させるのではなく、より完成度の高い作品に仕上げられるようモチベーションを上げていく。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の作品については、作業がおくれている生徒には、居残り作業等をおこなうなどし、作品の完成にむけて取り組ませる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

保 健 体 育

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣や授業準備に時間がかかり、指示が出ないと動かない生徒がいる。 ・集団行動や準備体操への意識がやや低い。 ・苦手分野における課題克服意識を持たず、主体的な参加が見られない生徒がいる。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育係を中心に、始業と同時に準備体操を開始することを徹底する。 ・集団行動や準備運動のねらいを明確にし、体育係を中心に自主的に行えるようにする。 ・グループ学習を通して学びあいの機会を創る。 ・個に応じて目標を設定し、運動技能の向上を図ることで達成感や喜びを味わうことのできる指導を行う。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・競技の特性を踏まえた上で、毎時の補強運動を継続的に行い、筋力や体力の向上を目指す。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わいながらも、多様な練習内容を取り入れ、より高い技術の習得を目指す。 ・運動の特性を理解させ、それに必要な技能や体力の向上を目指すとともに、ルール等の知識についても学ばせる。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、実技テスト未受験者対象に受験を行っている。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

技術・家庭

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない授業数の中で、一時間ずつを大切に課題や実技に取り組ませることが最大の課題である。また、生徒の実情は生活体験の少なさから実技を行う際に道具や用具をうまく使えなかったり見通しを持って作業することができない生徒も少なくない。教師が一つずつ作業の仕方やポイントを示して指導していくことが大切であると思われる。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に本時の課題を明確に生徒に説明して、目標を持って授業に取り組ませる。 ・作品づくりは、完成品を見せたりして完成までのイメージをもたせ、どのような行程を経て仕上がるかのイメージがわくようにする。 ・作業で用いる道具等の使い方の説明をていねいに行う。（安全指導） ・生徒どうしでの教え合いも大切にする。 ・ワークブックや振り返りカードを利用し、まとめに生かす。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の進行状況をなるべく把握し、作業の早い生徒には次の課題を与えたり、生徒相互の学び合いを行わせたりする。また、作業の進度が遅い生徒についても補えるところは授業で補う。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業中に工具等の使用法について振り返らせて、工夫したことは発表させてその後の作業に活かさせたりする。 ・作品は、全員が完成することを目指し完成後は作業の様子や出来上がった作品について振り返らせる。 ・小テスト等では、合格点をもうけ合格しなかった生徒は合格するまでチャレンジさせる。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の作品は、作業が遅れている生徒には、居残り作業等を行ったりして作品の完成にむけて取り組ませる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

英 語

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>実際の場面で活用できるコミュニケーションの能力を付けることを目標にして毎時間の指導を行う必要がある。そのためには、言語の知識・理解力をつけるだけに留まらず、実際の場面を想定した言語運用の練習機会を多く持ち、コミュニケーション力の定着を図る指導の工夫が大切である。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく、丁寧な指導を心掛ける。 ・言語の知識・理解力をコミュニケーション力に結びつけるために、四技能を結びつける学習活動を行う。 ・ペアワークを多く取り入れるなどして、授業中に実際に英語を使う場面を多く作る。 ・書く活動と他の活動を統合的、継続的に取り入れ、表現力をつける。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上支援講師と連携を図り授業の中で個別支援をする。 ・課題を基礎・基本と発展に分け、取り組ませる。 ・教え合い学習の要素を取り入れる。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストをこまめに行い、定着を図る。 ・ワークシートや補助教材を活用し、単元のまとめを行い、理解を確かめるとともに応用力をつける。 ・ターゲットを絞った表現活動を取り入れ、自然な場面の中で既習事項を使用させるよう工夫する。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の前に質問教室を実施する。 ・夏季休業中に補充教室を開く。